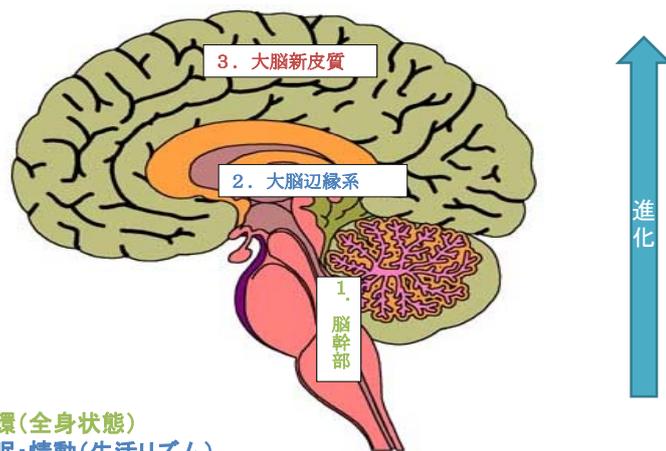


子どもの発達を支える 親子のコミュニケーション

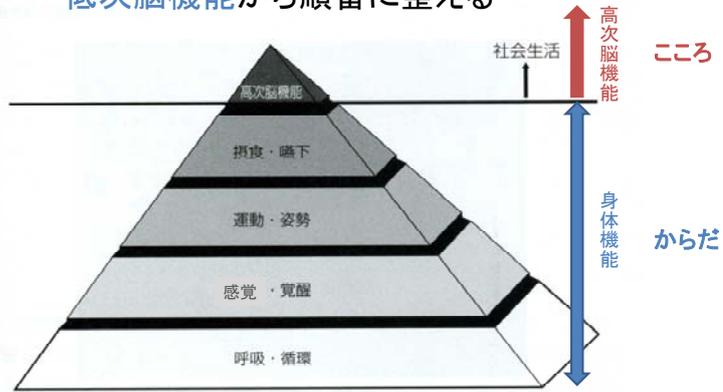
国立成育医療研究センター
橋本圭司

脳の三層構造



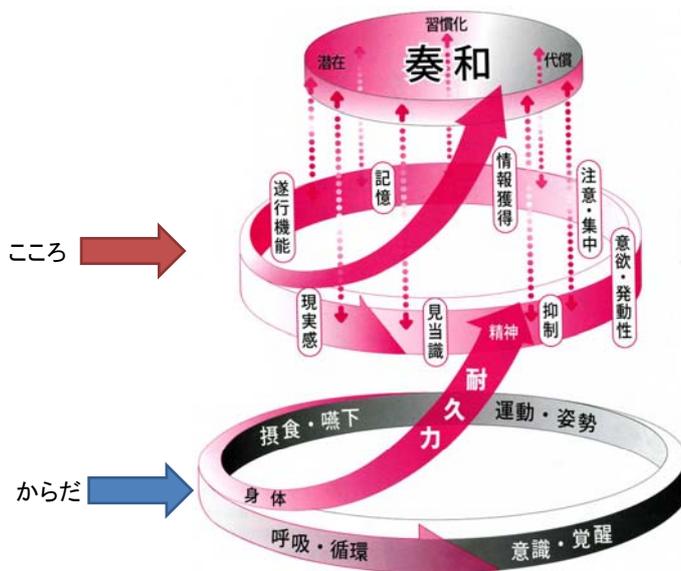
1. 呼吸・循環(全身状態)
2. 食事・睡眠・情動(生活リズム)
3. 高次脳機能(社会生活)

低次脳機能から順番に整える



「生活を支える高次脳機能リハビリテーション」橋本圭司著(三輪書店)より一部改編

難しいコミュニケーションの前に出来ることがいくつもあります

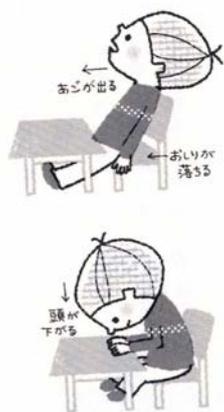


正の神経心理循環

「高次脳機能を鍛える」橋本圭司著(全日本病院出版社)から引用

呼吸・循環を整える

神経疲労(精神疲労)



子どもは神経疲労に陥りやすい

橋本圭司:「うちの子ちょっと違う?」と感じたら読む本
子どものよいところを伸ばす育て方, PHPエディタース・グループ, 2011より引用

神経疲労(精神疲労)の回復法



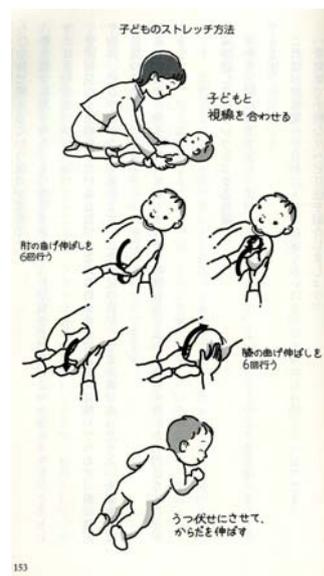
感覚を整える

ムツゴロウマッサージ



身体の上から下を基本に触りましょう ↓

橋本圭司:「うちの子ちょっと違う?」と感じたら読む本
 子どものよいところを伸ばす育て方, PHPエディターズ・グループ,
 2011より引用



橋本圭司:リハビリテーション入門, PHP新書, 2010より引用

タクティールケア



橋本圭司:「うちの子ちょっと違う?」と感じたら読む本
子どものよいところを伸ばす育て方, PHPエディターズ・グループ, 2011より引用



①中央から背中の外
側に向かってだ円を
描くように、時計回り
にゆっくり背中全体を
なでる。







②親指と中指で子どもの足をはさみ、骨と骨の間
にそって足の甲から指の
間に向かって引っ張るよ
うな感じで行なう。3回く
り返す。



③子どもの足指を親指と
人さし指で横からはさみ、
くるくると小さな円を描く
ように指先に向かって動
かす。5本の指それぞれ
に行う。

運動を整える



足底板＋ハイカット・シューズ

摂食・嚥下を整える



.....

丸飲みを防ぐ食べさせ方のコツ

The illustration consists of four panels arranged in a 2x2 grid. The top row shows a baby eating a round piece of food. The left panel shows the baby with a speech bubble saying "アーン" (A-). The right panel shows the baby with a speech bubble saying "ん" (n) and a large 'X' over the scene, indicating that swallowing the food whole is incorrect. The bottom row shows the same baby eating a round piece of food. The left panel shows the baby with a speech bubble saying "おいしいね" (Oishii ne). The right panel shows the baby with a speech bubble saying "ん" (n) and a large 'X' over the scene, indicating that swallowing the food whole is incorrect.

摂食嚥下のポイント

- ・ 味覚に心地よい刺激を与え成功体験を養う。
- ・ 顎をしっかり固定し、舌を自由に動かせるようにする。
- ・ 手で同じ物をしっかりつかんで、自分のペースでかじる経験を養う。



橋本圭司：リハビリテーション入門，PHP新書，2010より引用

高次脳機能(こころの機能)のコミュニケーション

易疲労性の症状

- 何事にも耐久力がない
- いつもあくびばかりしている
- 視点が合わない
- 反応が鈍い
- 座ってられない



イラストは
中村俊規監修, 橋本圭司・鞆総淳子著
「高次脳機能リハビリテーション看護」(関西看護出版, 2009)より引用

易疲労性への対応

- ① 姿勢を正して
- ② 深呼吸
- ③ ストレッチ
- ④ 緑の中で運動



薬の副作用がないかどうか判断をする



患者が疲れたら休む、を原則とする



一方で、アクティブ・レストと言って、動いてリフレッシュする方法も活用する



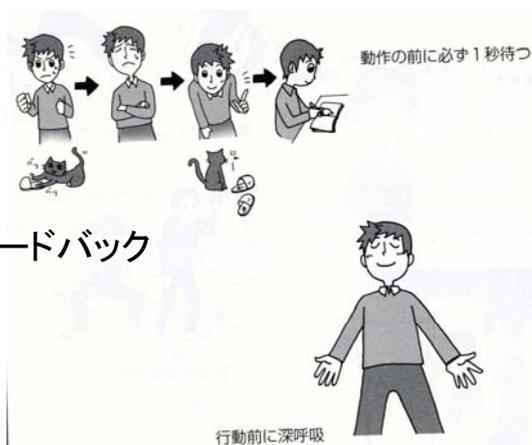
易疲労性の回復には、身体を使った運動療法が有効である

イライラの症状

- 言葉遣いが荒い
- 急に怒り出し、物を投げつける
- 場所をわきまえず泣き叫ぶ
- 大声を出す
- 何事も待てない



イライラへの対応



- ① ポジティブ・フィードバック
- ② 1秒待ち訓練
- ③ 行動変容法

やる気のなさの症状

- いつもボツーとしている
- 何事も自ら始めることが出来ない
- いつもやる気がない
- 会話が続かない



やる気のなさへの対応

- ① 抑揚をつけて7秒以内のキーワードで話す
- ② 何事も自主決定させる
- ③ 行動に移すきっかけを与える



注意・集中力低下の症状

- 問いかけても返事をしない
- 注意が散漫である
- ひとつの場所にとどまっていられない
- 食事中でも動作が中断される
- 課題を続けることが出来ない



注意・集中力低下への対応

- ① 身体調整
- ② 環境刺激
- ③ 認知訓練



言語の遅れ

- 指示が入らない
- 言葉がなかなか出てこない
- 「あー」「うー」などの擬音しか発することが出来ない
- 会話が続かない
- 文字が読めないが、絵は理解できる
- 読み書きができない



言語への対応

- ① 助け舟を出す
- ② 言葉を使わないコミュニケーション
- ③ リラックスした環境
- ④ タッチケア



記憶の問題

- さっき言われたことを忘れてしまう
- 何度も同じことを質問する
- 何度も同じ間違いを繰り返す
- 生活がつながらない



記憶への対応

- ① 暗記記憶よりも
経験記憶を養う
- ② 何事もオウム返し
に復唱させる



段取りが悪い

- 段取りが悪い
- 何事にもこだわり、前に進まない
- パニックになりやすく、修正がきかない



何事も段取りが悪い



予期できないことが起こるとパニックになってしまう

段取りへの対応

- ① あいまいな指示はさげ、指示は具体的に
- ② いつ、どこで、何を、どのように、結果どうなるのか、について書き出す
- ③ 時間にゆとりを持つ



抽象的な指示はさげ、何でも具体的に



予習→実行→復習が基本

本人に認識がない

- 自分の問題を理解できない
- 訓練や治療を拒否する
- 常に問題は自分以外にあると思っている

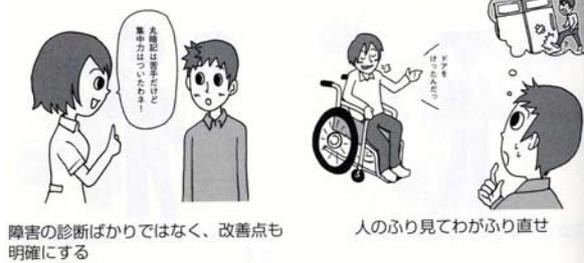


障害の存在を否定する

治療やリハビリを拒否する

認識への対応

- ① 人のふり見て我がふり直せ
- ② 今確実に自分にできることを認識する
- ③ 「できない」ではなく「できる」を伸ばす



障害の診断ばかりではなく、改善点も明確にする

人のふり見てわがふり直せ

親子のコミュニケーションのポイント

- ・1人のヒトとして向き合う。
→呼吸・循環、運動、認知、摂食嚥下、生活全般。
- ・支援の対象はお子さんばかりではなく、
家族、そしてそれを取り巻く環境全てである。
- ・悪いところ(苦手なこと)を鍛えようとするのではなく、
良いところ(得意なこと)を伸ばす視点が重要。
- ・10年後、20年後を見据えたプランをたてる必要がある。



うれしいな。
楽しいな。
そんな前向きな
言葉たちが
幸せへの種と
なるんだよ!!



